

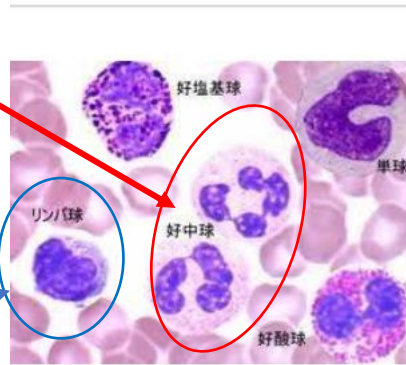
## 白血球

大塚記載

白血球数は 4000～8000 程度が正常値。

細菌感染などで細菌を食べてくれるのが好中球（neutro と検査では記載）

好中球やリンパ球の割合は個人差があるので少々割合に異常があっても心配無い。感染では好中球の割合が 90%以上になることもある。



免疫担当細胞がリンパ球。これも割合は様々で白血球数の 26%～47%。白血球数が正常でリンパ球の割合が少々変動しても全く心配無い。顕微鏡で好中球やリンパ球の割合を見るのが白血球分類、或いは末梢血分類、白血球像などと呼ばれる。

白血球数が多くて異常な白血球が出る場合には問題だが、白血球数が正常で上記の様に少々割合が違うのは全く心配なし。

## 検尿の粘液糸や細菌について

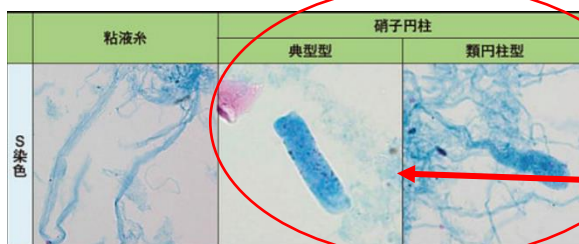
粘液糸は全く心配無し。腎臓や膀胱の細胞が壊れたものでは無い。腎炎などでは腎臓の細胞が壊れた硝子円柱などが見られることがあるが粘液糸は、そもそも検査結果に記載する必要も無い程度。以下に検査技師会の学術部のコメントを引用。

私個人の考えとしては、粘液糸は炎症時やその回復時あるいは健康者にも出現しますが、疾患特異性がないこと、病変の推定(有無の判定)ができないという点で、臨床側に報告する必要性は少ないと考えています。

臨床側と相談の上、ご施設での報告法を決められてはいかがでしょうか。

参考文献 近藤清志:硝子円柱と粘液糸の鑑別点. 検査と技術30:460, 2002

(社団法人 大阪府臨床検査技師会 学術部 佐々木正義)



これは腎炎などで見られる事がある

尿の細菌は膀胱炎などの症状が見られない時にも女性の場合は見られることも多い。頻尿、尿道痛などある場合は抗生物質投与する。細菌で多いのは大腸菌。

